

知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現 に向けた授業改善に関する研究

—生活単元学習の授業づくりを通して—

特別支援教育室 山内 望 川本 孝 山田 亜紀
越智 宣和 玉乃井 美穂

研究協力者 愛媛大学大学院教育学研究科教授 榎木 暢子

【要 約】

新学習指導要領では、児童生徒がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示された。そこで、知的障がい教育における授業改善の取組の参考となる資料を作成するために、協力学校でのアンケート調査結果を基に、生活単元学習の授業づくりの課題や授業改善のポイントを明らかにした。

【キーワード】 知的障がい教育 主体的・対話的で深い学び 生活単元学習 授業づくり

1 研究の目的

平成29年4月告示の「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」（以下「新学習指導要領」という。）では、児童生徒がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示された。ただし、知的障がいのある児童生徒は、「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面の中で生かすことが難しい」「成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分育っていないことが多い」（新学習指導要領解説各教科等編〈小学部・中学部〉抜粋）という学習上の特性等がある。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の具体的な内容を考える際には、そのような学習上の特性等を踏まえることが重要となってくる。また、目指す授業改善は、全く新しい考え方で進めるものではなく、これまで知的障がい教育において取り組まれ、積み上げられてきた実践を基盤にしながら、学びの過程の質的改善を図ることだと考える。

従前から、知的障がい教育を特徴付けるものとして、各教科等を合わせた指導という指導の形態がある。なかでも生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際的・総合的に学習するも

のであり、「生きる力」を育てるために有効な指導の形態として、特別支援学校や特別支援学級の教育課程に位置付けられてきた。そのため、これまでに生活単元学習に関する多くの優れた授業実践が報告されている。しかし、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」（以下、「三つの学び」という。）の視点で授業改善を進め、その成果をまとめたものは少ないのが現状である。

そこで、知的障がい教育における生活単元学習の授業に焦点を当て、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を三つの柱とする資質・能力を育成するための、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一助となる資料を作成し提供することで、特別支援学校や特別支援学級での授業の充実が図られると考え、2か年継続の研究として取り組むこととした。

1年次である本年度は、協力学校でのアンケート調査を実施し、その結果を基に、生活単元学習の授業づくりの課題や授業改善のポイントを明らかにする。

2 研究の内容

(1) アンケートの作成及び実施

ア 対象者

協力学校として、県内の知的障がい特別支援学校1校に依頼し、知的障がい教育に4年以上携わった経験のある教員（講師を除く。）を対象にすることとした。

イ 実施時期及び回答者数

- ・実施期間 令和2年7月20日～7月31日
- ・回答者数 75名（経験年数10年未満28名・10年以上47名）

ウ アンケート項目の設定

授業づくりの課題や授業改善のポイントを明らかにするため、「主体的・対話的で深い学び」に対する教員のイメージや実現の程度、「三つの学び」をしている子どもの姿に関する項目を設定した。また、授業づくりについて、年間指導計画・単元計画・授業計画の工夫や授業づくりの課題、育成すべき資質・能力や個別の指導計画に対する意識の程度に関する項目も設定した（表1）。

エ 回答方法

「主体的・対話的で深い学び」に対する教員のイメージや実現の程度は、全体的な傾向及び知的障がい教育における経験年数（10年未満経験群と10年以上経験群）による差を把握するため、4件法（「できている」「少しはできている」「あまりできていない」「できていない」）で回答を求めた。「三つの学び」をしている子どもの姿、年間指導計画・単元計画・授業計画の工夫及び授業づくりの課題については、より具体的な内容を把握するため、自由記述とした。育成すべき資質・能力や個別の指導計画に対する意識については、教員の意識の程度を把握するため、段階評価法（「1 全く意識していない」から「10 非常に意識している」までの10段階）で回答を求めた。

表1 アンケート

<p>1 生活単元学習の授業における子どもの姿について、以下の設問にお答えください。</p> <p>質問1 「主体的・対話的で深い学び」をしている子どものイメージ 生活単元学習の授業において、「主体的・対話的で深い学び」をしている子どものイメージを持つことはできていますか。次の中から最も当てはまるものに○を付けてください。</p> <p>できている 少しはできている あまりできていない できていない</p> <p>質問2 「主体的な学び」の実現程度 生活単元学習の授業において、「主体的な学び」が実現できていると思いますか。次の中から最も当てはまるものに○を付けてください。</p> <p>できている 少しはできている あまりできていない できていない</p> <p>質問3 「主体的な学び」をしている子どもの姿 あなたが考える「主体的な学び」をしている子どもの姿をお書きください。 ※ 実際の授業の中で見られた子どもの姿だけでなく、イメージする姿でも構いません。 ※ 複数ある場合は、できるだけ多くご記入ください。</p>
--

<p>質問4 「対話的な学び」の実現程度 生活単元学習の授業において、「対話的な学び」が実現できていると思いますか。次の中から最も当てはまるものに○を付けてください。</p> <p>できている 少しはできている あまりできていない できていない</p> <p>質問5 「対話的な学び」をしている子どもの姿 あなたが考える「対話的な学び」をしている子どもの姿をお書きください。 ※ 実際の授業の中で見られた子どもの姿だけでなく、イメージする姿でも構いません。 ※ 複数ある場合は、できるだけ多くご記入ください。</p> <p>質問6 「深い学び」の実現程度 生活単元学習の授業において、「深い学び」が実現できていると思いますか。次の中から最も当てはまるものに○を付けてください。</p> <p>できている 少しはできている あまりできていない できていない</p> <p>質問7 「深い学び」をしている子どもの姿 あなたが考える「深い学び」をしている子どもの姿をお書きください。 ※ 実際の授業の中で見られた子どもの姿だけでなく、イメージする姿でも構いません。 ※ 複数ある場合は、できるだけ多くご記入ください。</p> <p>2 生活単元学習の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、工夫したことや工夫したいと考えていることについて、以下の設問にお答えください。</p> <p>質問8 年間指導計画における工夫 生活単元学習の年間指導計画を考える際に、工夫したことや工夫したいと考えていることをお書きください。</p> <p>質問9 単元計画における工夫 生活単元学習の単元計画を考える際に、工夫したことや工夫したいと考えていることをお書きください。</p> <p>質問10 授業(1時間)における工夫 生活単元学習の授業を考える際に、工夫したことや工夫したいと考えていることをお書きください。</p> <p>質問11 授業づくりの課題・分からないこと 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した生活単元学習の授業づくりにおいて、あなた自身が課題だと思うことや分からないことなどをお書きください。</p> <p>3 個別の指導計画と生活単元学習の授業づくりに関して、以下の設問にお答えください。</p> <p>質問12 育成すべき資質・能力の3観点への意識 生活単元学習の授業において、学習指導要領に示された、育成すべき資質・能力の3観点(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)を、どの程度意識して目標設定をされていますか。当てはまるものに○を付けてください。</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 全く意識していない 非常に意識している</p> <p>質問13 個別の指導計画の目標との関連 生活単元学習の授業における目標は、個別の指導計画にある目標をどの程度意識して設定されていますか。当てはまるものに○を付けてください。</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 全く意識していない 非常に意識している</p>
--

(2) アンケート結果及び考察

アンケート項目の内容のまとめりに結果を示し、考察を述べていく。

ア 「主体的・対話的で深い学び」をしている子どものイメージの程度

質問1：生活単元学習の授業において、「主体的・対話的で深い学び」をしている子どものイメージを持つことはできているか。

(7) 結果

全体と経験年数に応じて整理した結果は、次のとおりである(図1・2)。

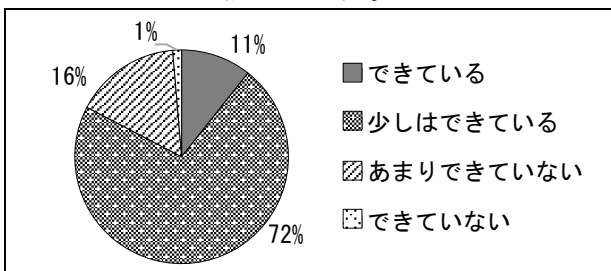


図1 「主体的・対話的で深い学び」のイメージの程度 (全体)

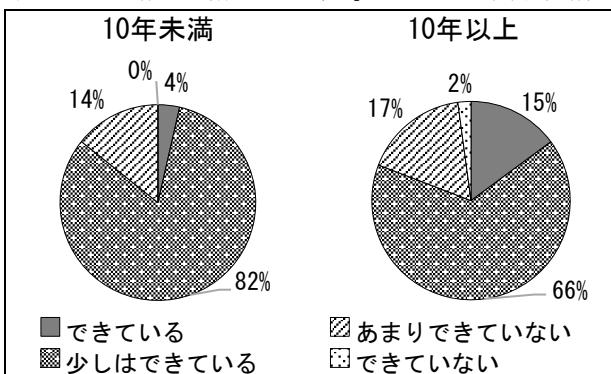


図2 「主体的・対話的で深い学び」のイメージの程度 (経験年数別)

イメージが「できている」「少しはできている」と回答したのは、全体では83%、10年未満では86%、10年以上では81%であった。

(4) 考察

全体、経験年数別ともに高い割合であり、経験年数による大きな違いは見られないことから、「主体的・対話的で深い学び」に対して、多くの教員が、ある程度のイメージを持つことができていると言える。しかし、「できている」と回答したのは、10年未満では4%、10年以上では15%と差が見られたことから、経験年数の浅い教員は、子どもの姿の捉えにくさを感じていることがうかがえた。

イ 「三つの学び」の実現程度

質問2・4・6：生活単元学習において、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が実現できていると思うか。

(7) 結果

a 「主体的な学び」について

全体と経験年数に応じて整理した結果は、次のとおりである(図3・4)。

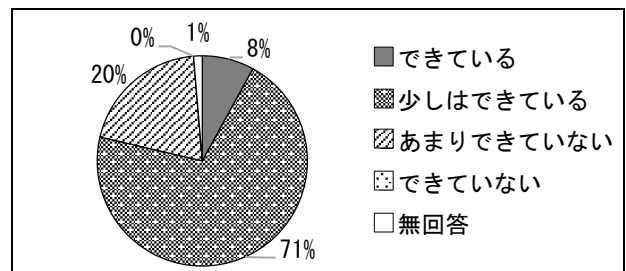


図3 「主体的な学び」の実現程度 (全体)

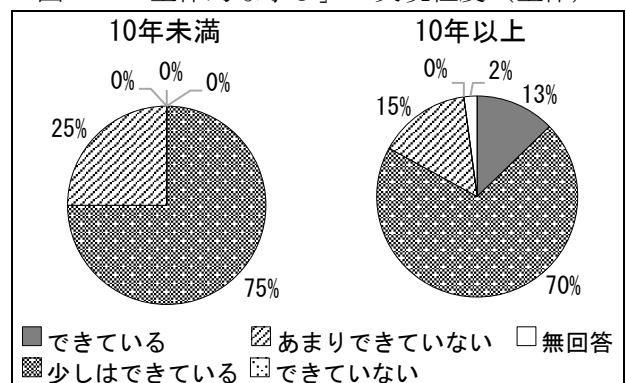


図4 「主体的な学び」の実現程度 (経験年数別)

実現が「できている」「少しはできている」と回答したのは、全体では79%、10年未満では75%、10年以上では83%であった。

b 「対話的な学び」について

全体と経験年数に応じて整理した結果は、次のとおりである(図5・6)。

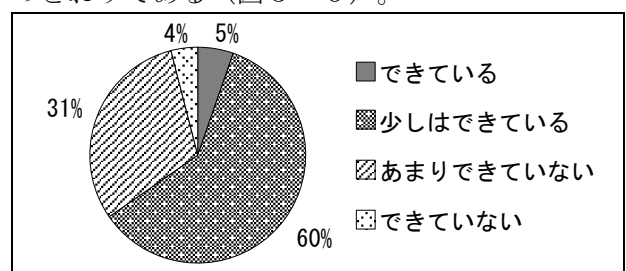


図5 「対話的な学び」の実現程度 (全体)

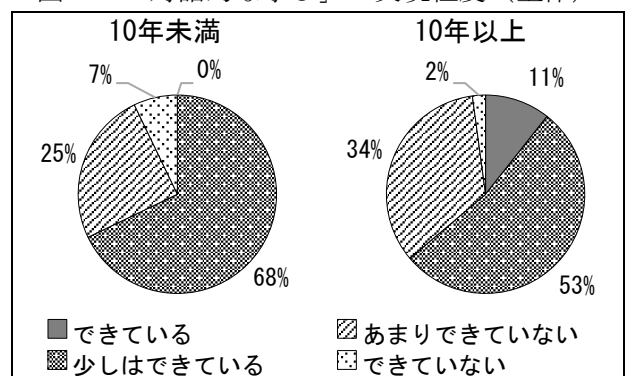


図6 「対話的な学び」の実現程度 (経験年数別)
実現が「できている」「少しはできている」

と回答したのは、全体では65%、10年未満では68%、10年以上では64%であった。

ｃ 「深い学び」について

全体と経験年数に応じて整理した結果は、次のとおりである（図7・8）。

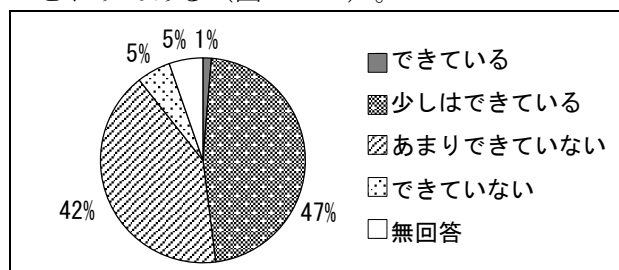


図7 「深い学び」の実現程度（全体）

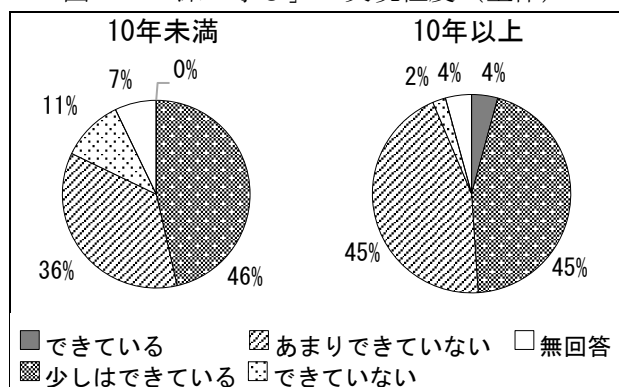


図8 「深い学び」の実現程度（経験年数別）

実現が「できている」「少しはできている」と回答したのは、全体では48%、10年未満では46%、10年以上では49%であった。

④ 考察

実現が「できている」「少しはできている」と回答した割合は、「主体的な学び」が最も高く、「対話的な学び」、「深い学び」の順に低くなっている。「主体的な学び」については、見通しを持つことや主体的に活動することなど、これまでの知的障がい教育において重視されてきたことと関連が深く、具体的な子どもの姿のイメージが持てており、実現のための支援の手立てが取られていると考えられる。一方、「対話的な学び」や「深い学び」は、「主体的な学び」と比べて、意識されていなかったことや捉え方の難しさがあることが考えられる。特に、「深い学び」については、全体、経験年数別ともに半数を超える教員が、実現が「あまりできていない」「できていない」と回答を寄せていることから、実現することの難しさがうかがえる。質問1の結果からは、全体の83%の教員が「主体的・対話的で深い学び」をしている子どものイメージが持てていると回答していたが、

「三つの学び」のイメージの程度には違いがあると考えられる。

また、10年未満の教員は、実現程度に関する全ての項目で「できている」と回答した割合が0%であり、10年以上の教員と比べ、僅かではあるが、「できていない」と回答した割合が高い。授業改善の一助となる資料を作成するに当たっては、経験年数の浅い教員にとって分かりやすく、活用しやすいものにする必要がある。

ウ 「三つの学び」をしている具体的な子どもの姿

質問3・5・7：あなたが考える「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」をしている子どもの姿とは。

アンケートの自由記述を基に、次の手順で整理し、分析をした。

- ① 自由記述の内容を一つずつカード（以下「回答」という。）にする。その際、不要な語（設問に含まれる言葉など）を取り除いたり、同じものを指す言葉を統一した表現にしたり（子ども・児童・生徒は児童生徒にするなど）する。
- ② 特別支援教育室の指導主事5名で、①の回答を類似する記述内容ごとに分類し、タイトルを付ける（以下「グルーピング」という。）。
- ③ ①の回答を、AIテキストマイニング（User Local : <http://textmining.userlocal.jp/>）を用いて、頻出語の傾向や関連性を分析（以下「テキストマイニングによる分析」という。）する。
- ④ グルーピングとテキストマイニングによる分析から、キーワードを抽出する。
- ⑤ 新学習指導要領解説総則編において、授業改善の三つの視点として示された学びの姿と分析結果を比較する。

⑦ 結果

a 共起キーワード分析について

テキストマイニングによる共起キーワード分析（文章中に出現する言葉の出現パターンが似たものを線で結び図に表したもの）の結果は、次のとおりである（図9・10・11）。なお、関連付けの結果が分かりやすいように、囲み線を加えた。

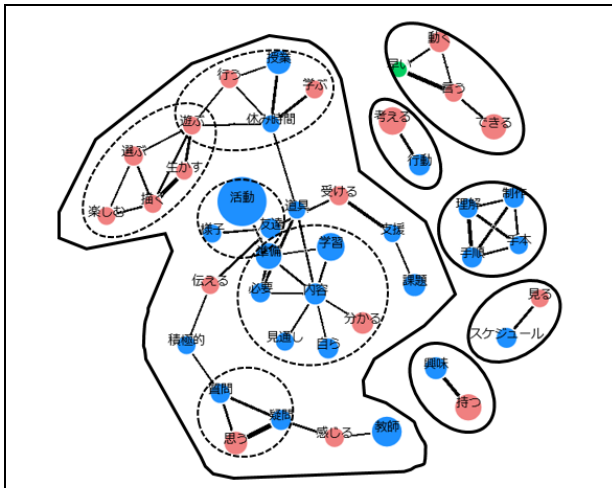


図9 「主体的な学び」の共起キーワード分析

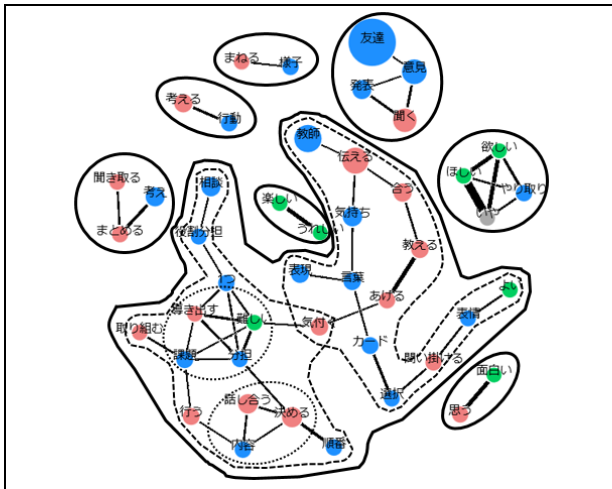


図10 「対話的な学び」の共起キーワード分析

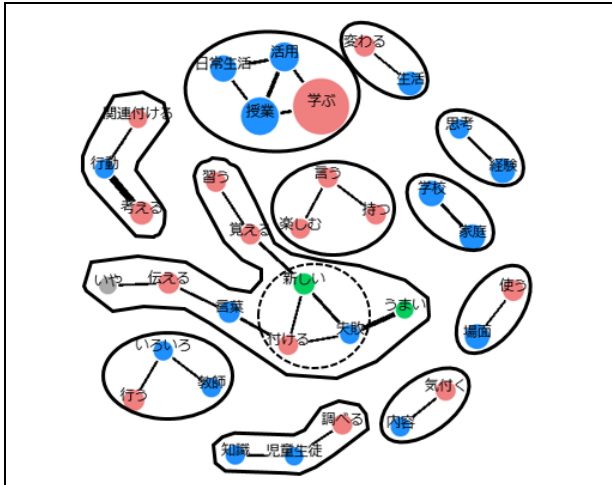


図11 「深い学び」の共起キーワード分析

「主体的な学び」や「対話的な学び」は、多くの言葉が結び付いた大きなグループがあり、独立したグループが少なかった。一方、「深い学び」は、言葉の数が少なく、独立したグループが多かった。

b 「主体的な学び」について

グルーピングとテキストマイニングによる分析から得られたキーワードを回答数の多い順に

示すと、次のとおりである（表2）。

表2 「主体的な学び」のキーワード

見通し／自分から発言する／自分で考え判断し行動する／興味・関心や期待感／工夫する／楽しむ／学んだことの実践／教材への関心／友達の活動を見て取り組む／他者への注目／集中して取り組む／挑戦／最後までやり遂げる／自己決定／自己評価／分かる授業（回答数順）
--

得られたキーワードを具体的な記述と照らし合わせつつ、新学習指導要領解説による「主体的な学び」の姿に基づいて整理した結果は、次のとおりである（表3）。なお、当てはまるキーワードが確認できない場合は、「※該当なし」とした。

表3 「主体的な学び」の姿とキーワード

「主体的な学び」の姿	キーワード
学ぶことに興味や関心をもつ	興味・関心や期待感／見通し／楽しむ／教材への関心
自己のキャリア形成の方向性と関連付ける	※該当なし
見通しをもつ	見通し／友達の活動を見て取り組む
粘り強く取り組む	自分から発言する／自分で考え判断し行動する／工夫する／学んだことの実践／他者への注目／集中して取り組む／挑戦／教材への関心／友達の活動を見て取り組む／最後までやり遂げる／自己決定／分かる授業
自己の学習活動を振り返る	自己評価
次につなげる	興味・関心や期待感／見通し

比較した結果、関連する回答が多かった順に、「粘り強く取り組む」「学ぶことに興味や関心をもつ」「見通しをもつ」となった。また、関連する回答が少なかったのは「自己の学習活動を振り返る」「次につなげる」であり、「自己のキャリア形成の方向性と関連付ける」ことに関連する回答は、見られなかった。

c 「対話的な学び」について

グルーピングとテキストマイニングによる分析から得られたキーワードを回答数の多い順に示すと、次のとおりである（表4）。

表4 「対話的な学び」のキーワード

相手との関わり／考えを伝える／相手への反応／自分との対話／意思表示／やり取りの成立／要求／物との対話（回答数順）
--

得られたキーワードを具体的な記述と照らし合わせつつ、新学習指導要領解説による「対話的な学び」の姿に基づいて整理した結果は、次のとおりである（表5）。

表5 「対話的な学び」の姿とキーワード

「対話的な学び」の姿	キーワード
子供同士の協働	相手との関わり／相手への反応／やり取りの成立
教職員との対話	考えを伝える／意思表示／要求
地域の人との対話	※該当なし
先哲の考え方	物との対話
自己の考えを広げ深める	自分との対話

比較した結果、関連する回答が多かった順に、「子供同士の協働」「教職員との対話」となった。また、関連する回答が少なかったのは「先哲の考え方」「自己の考えを広げ深める」であり、「地域の人との対話」に関連する回答は見られなかった。

d 「深い学び」について

グルーピングとテキストマイニングによる分析から得られたキーワードを回答数の多い順に示すと、次のとおりである（表6）。

表6 「深い学び」のキーワード

般化（授業場面以外で見られる姿）／学んだことを生かす／学んだことを関連付けて考える／工夫や新しい考え／友達や集団を意識した行動／自分から考えて行動する／学んだことから考えて発言する／知識を関連付ける／技術の活用や再現／課題解決／自己評価・他者評価／試行錯誤（回答数順）
--

授業場面以外で見られる子どもの姿を除き、得られたキーワードを具体的な記述と照らし合わせつつ、新学習指導要領解説による「深い学び」の姿に基づいて整理した結果は、次のとおりである（表7）。なお、「深い学び」の姿の中で示された「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる」については、生活単元学習において「自分の生活と結び付ける」と捉えることにした。

表7 「深い学び」の姿とキーワード

「深い学び」の姿	キーワード
自分の生活と結び付ける	※該当なし
知識を相互に関連付けてより深く理解する	学んだことを関連付けて考える／学んだことを生かす／知識を関連付ける／技術の活用や再現
情報を精査する	※該当なし
考えを形成する	学んだことから考えて発言する／自己評価・他者評価
問題を見いだす	※該当なし
解決策を考える	友達や集団を意識した行動／自分から考えて行動する／課題解決／試行錯誤
思いや考えを基に創造する	工夫や新しい考え

新学習指導要領解説と比較した結果、関連する回答が多かった順に、「知識を相互に関連付けてより深く理解する」「解決策を考える」となった。また、関連する回答が少なかったのは「思いや考えを基に創造する」「考えを形成する」であり、「自分の生活と結び付ける」「情報を精査する」「問題を見いだす」ことに関連する回答は見られなかった。

(イ) 考察

テキストマイニングによる分析（図9・10・11参照）から、「主体的な学び」や「対話的な学び」は複数のグループが結び付き、大きなグループとなっていることから、教員間で共通するイメージがあり、具体的な子どもの姿のイメージができていと考えられる。一方で、「深い学び」は、共通するイメージの少なさがうかがえた。

また、抽出したキーワードを新学習指導要領解説による「三つの学び」の姿と照らし合わせた結果、具体的な回答が多く見られた項目がある一方で、「三つの学び」の全てにおいて、該当するキーワードがない項目があった。特に、「対話的な学び」の具体的な回答を見ると、友達や教師以外の人に関する言葉はなく、書物の活用や対話を通して自己の考えを広げ深めることに関する言葉は少なかった。また、「深い学び」では、授業以外の場面での子どもの姿に関する言葉に比べ、授業中の子どもの姿に関する言葉が少なかった。つまり、対話の相手が限定

されていたり対話自体を目的としていたりすることや、授業中の「深い学び」の姿の捉え方の難しさがあることが明らかとなった。

これらの結果から、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の順にイメージが狭まり、具体的な子どもの姿が十分にイメージできていないことが示された。これは、「三つの学び」の実現程度の結果を裏付けるものであると考える。

以上のことから、「三つの学び」の姿を、より実際の授業場面に即した形で分かりやすく示すことが必要だと考え、協力学校の先生方の回答を生かしつつ、先行研究等を参考にして整理した。「三つの学び」の姿は、次のように捉えることができると思う。

- 「主体的な学び」の姿とは、「学ぶ意義や意味が分かり、自ら考え判断し行動するなど、活動に見通しを持って粘り強く取り組むとともに、学習活動を振り返り、次の活動を期待する姿」である。
- 「対話的な学び」の姿とは、「人を意識した行動や協働、様々な人との多様な手段を用いた対話や昔の優れた人の考え方などを手掛かりに考えることを通して、自分の考えを広げ深める姿」である。
- 「深い学び」の姿とは、「学習の過程の中で、自分の生活と結び付けながら、これまでの経験や知識を基に考えたり、課題を解決しようと工夫したりする姿」である。

エ 年間指導計画・単元計画・授業計画の工夫

質問 8・9・10：生活単元学習の年間指導計画・単元計画・授業を考える際に、工夫したことや工夫したいことは。

アンケートの自由記述を基に、次の手順で整理し、分析をした。

- ① 自由記述を基に、グルーピングする。
- ② テキストマイニングによる分析をする。
- ③ ①②から、キーワードを抽出する。

(7) 結果

a 年間指導計画の工夫について

得られたキーワードを回答数の多い順に示すと、次のとおりである（表 8）。

表 8 年間指導計画の工夫に関するキーワード

単元間のつながり／興味・関心／実生活との関連／テーマ設定（年間や月）／実生活への般化を重視／偏りのないテーマ／子ども同士の関わり／学年間での共通理解／将来の生活との関連／子どもの実態／生活年齢の重視／学びの連続性／子どもの課題／子どもが見通しを持つ／資質・能力／自己評価／地域資源の活用（回答数順）

年間指導計画の工夫においては、「単元間のつながり」に関する回答が最も多く、20名が回答していた。次いで多かった回答は、「興味・関心」が13名、「実生活との関連」「テーマ設定（年間や月）」がそれぞれ10名であった。一方で、「資質・能力」「自己評価」「地域資源の活用」に関する回答は少なく、いずれも2名以下であった。

b 単元計画の工夫について

得られたキーワードを回答数の多い順に示すと、次のとおりである（表 9）。

表 9 単元計画の工夫に関するキーワード

興味・関心／実態に応じた課題（資質・能力）や活動の工夫／多種多様な経験／日常生活や家庭との関連／子ども同士の関わり／実態に応じた教材・教具／つながりのある学び・テーマ／身の回りの題材／子どもの得意な活動を生かす／キャリア教育／ICTの活用（回答数順）

単元計画の工夫においては、「興味・関心」に関する回答が最も多く、23名が回答していた。次いで多かった回答は、「実態に応じた課題（資質・能力）や活動の工夫」が18名、「多種多様な経験」が17名、「日常生活や家庭との関連」が13名であった。一方で、「子どもの得意な活動を生かす」「キャリア教育」「ICTの活用」に関する回答は少なく、いずれも3名以下であった。

c 授業計画の工夫について

得られたキーワードを回答数の多い順に示すと、次のとおりである（表 10）。

表 10 授業計画の工夫に関するキーワード

子どもの実態に応じた活動設定／見通しを持たせる工夫／個に応じた目標／興味・関心／子ども同士の関わり／導入の工夫／教師の最小支援／振り返りや評価の工夫／ICTの活用（回答数順）

授業計画の工夫においては、「子どもの実態

に応じた活動設定」に関する回答が最も多く、16名が回答していた。次いで「見通しを持たせる工夫」に関する回答が多く、13名が回答していた。一方で、「導入の工夫」「教師の最小支援」「振り返りや評価の工夫」「ICTの活用」に関する回答は少なく、いずれも3名以下であった。

(イ) 考察

年間指導計画の工夫においては、「単元間のつながり」が最も意識されていることから、継続的・発展的な単元構成となるようにしていると考えられる。しかし、具体的な記述内容を見ると活動の継続性や発展性に関するものがほとんどであり、「資質・能力」に関するものは僅かであった。年間指導計画を考える際、個別の指導計画との関連をより意識しながら作成に当たることが課題である。

また、年間指導計画から授業計画まで、どの計画においても「地域資源の活用」や「ICTの活用」に関する記述は少なかった。地域資源の活用については、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の新学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」において重視する必要があると述べられていることから、計画的に地域資源を活用することが課題であると言える。また、「ICTの活用」についても、新学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に当たっての配慮事項として、ICTを活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが求められていることから、子どもの実態に応じたICTの活用も課題である。

これらのアンケートの分析から得られた結果を基に、新学習指導要領解説や先行研究等を参考にして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「三つの学び」の姿を引き出すためのポイントを、年間指導計画、単元計画、授業計画に分けて整理した（表11・12・13）。「三つの学び」は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連するものであることから、点線で区切っている。また、アンケートを基にした項目を○で、新学習指導要領解説や先行研究等を参考にして追加した項目を□で示している。

なお、新学習指導要領解説では、各教科等を

合わせて指導を行う際には、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う重要性が示されている。生活単元学習においても、育てたい資質・能力を明確にすることが重要であり、年間指導計画や単元計画、授業計画を立てる出発点となることを忘れてはならない。

表11 年間指導計画における「三つの学び」の姿を引き出すポイント

主体的な学び	○子どもの実態や興味・関心に応じた単元設定
対話的な学び	○人との関わりのある活動が保証された単元設定 □生活年齢に応じた地域資源(人的・物的)を生かした単元設定
深い学び	○単元間の関連性や学びの系統性、偏りのない学習内容を大切に単元設定・単元配列 ○他教科等の年間指導計画との関連性を考慮した単元設定・単元配列

表12 単元計画における「三つの学び」の姿を引き出すポイント

主体的な学び	○実際の生活と結び付き、子どもの実態や興味・関心に応じた課題設定 ○実物を活用したり、体験的な活動を取り入れたりする単元展開 ○子どもの実態に応じた教材・教具の活用や開発（ICTの活用を含む） □達成感や充実感を味わい、分かったことやできるようになったことを実感する評価の工夫
対話的な学び	○子ども同士の協働がある課題設定や単元展開 □子どもの実態に応じた様々な人との関わりや対話できる場面が設けられた単元展開 □人との関わりに必然性のある単元展開
深い学び	○各教科等で学習したことや身に付けた知識・技術を活用する課題設定や単元展開 ○目標の達成や課題の解決に向け、子どもの思考の流れに沿った単元展開 □単元での学びを振り返りつつ、実際の生活に生かそうとする意欲を高める単元展開

表13 授業計画における「三つの学び」の姿を引き出すポイント

主体的な学び	<input type="checkbox"/> 本時の目標や学習活動に見通しを持ったための支援の工夫 <input type="checkbox"/> 直接的な支援を最小限にする状況づくりの工夫 <input type="checkbox"/> 「なぜ、何のために」学習するのかが分かる支援の工夫 <input type="checkbox"/> 目標を達成するための教材・教具の工夫 <input type="checkbox"/> 成長が実感できる自己評価・他者評価の工夫 <input type="checkbox"/> 次時への意欲や期待感を高める振り返りの工夫 <input type="checkbox"/> 効果的なICTの活用
対話的な学び	<input type="checkbox"/> 友達や教員と関わる活動や場の設定 <input type="checkbox"/> 子どもの実態に応じた、子ども同士の関わりを促す支援の工夫 <input type="checkbox"/> 言葉や身振り、文字、絵、カード、ワークシートなどの多様な手段を用いて、考えや気持ちを表現する活動の設定 <input type="checkbox"/> 自分の考えと友達の考えを比べたり、活動を振り返ったりするための、子どもの思考を可視化する工夫 <input type="checkbox"/> 子どもが相互に思考を深められる学習グループ構成の工夫 <input type="checkbox"/> 子どもが相互に活動の様子を見合うことができる環境設定の工夫 <input type="checkbox"/> 効果的なICTの活用
深い学び	<input type="checkbox"/> 学んだことを自分なりに表現することができる振り返りの工夫 <input type="checkbox"/> 学んだことを基に新たな課題を持つことができる振り返りの工夫 <input type="checkbox"/> 子どもの行動を日常生活と結び付け、「なぜ、何のために」するのか意味付けたり価値付けたりする工夫 <input type="checkbox"/> 子どもがより考えようとする発問や言葉掛けの精選 <input type="checkbox"/> 効果的なICTの活用

オ 授業づくりの課題

質問11：「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した生活単元学習の授業における課題や分からないことは。

アンケートの自由記述を基に、次の手順で整理し、分析をした。

- ① 自由記述を基に、グルーピングする。
- ② テキストマイニングによる分析をする。
- ③ ①②から、キーワードを抽出する。

(7) 結果

得られたキーワードを回答数の多い順に示すと、次のとおりである（表14）。

表14 授業づくりの課題のキーワード

対話的な学びを実現する手立て／深い学びを実現する手立てや評価／専門性の向上／能力差のある集団への適合／単元設定／評価／教員間の連携／家庭・地域との連携／主体的な学びを実現するための手立ての工夫／ICTの活用（回答数順）

授業づくりの課題として、「対話的な学びを実現する手立て」に関する回答が最も多く、17名が回答していた。次いで多かった回答は「深い学びを実現する手立てや評価」「専門性の向上」で、それぞれ15名が回答していた。一方、「家庭・地域との連携」「主体的な学びを実現するための手立ての工夫」「ICTの活用」に関する回答は少なく、いずれも3名以下であった。

(4) 考察

「主体的な学びを実現するための手立ての工夫」に関する回答は少なく、「主体的な学び」の実現程度の結果を裏付けるものとなった。一方で、「対話的な学びを実現する手立て」と「深い学びを実現する手立てや評価」に関する回答を合わせると、半数近くを占め、大きな課題であることが明らかとなった。そのため、「対話的な学び」「深い学び」については、授業実践を通して具体的な子どもの姿や実現するための手立てや評価方法を明らかにすることが必要であると考えられる。

また、「ICTの活用」に関する記述は最も少なかったが、単元計画の工夫や授業計画の工夫においても最も少なかった項目であり、ICTの活用に対する教員の意識の低さや苦手意識の現れであると考えられる。ICTの活用については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたツールとして活用することを念頭に置き、子どもの実態に応じた効果的な活用方法を検討し、授業改善に取り組むことが重要であると考えられる。

カ 個別の指導計画と生活単元学習の授業づくり

質問12：生活単元学習の授業において、育成

すべき資質・能力の3観点をどの程度意識して目標設定をしているか。

質問 13：生活単元学習の授業における目標は、個別の指導計画にある目標をどの程度意識して設定しているか。

(7) 結果

a 育成すべき資質・能力の3観点への意識について

全体と経験年数に応じて整理した結果は、次のとおりである（図12・13）。なお、無回答者3名は除いた。

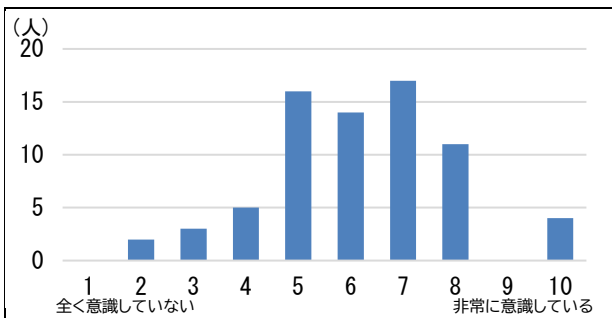


図12 育成すべき資質・能力の3観点への意識 (全体)

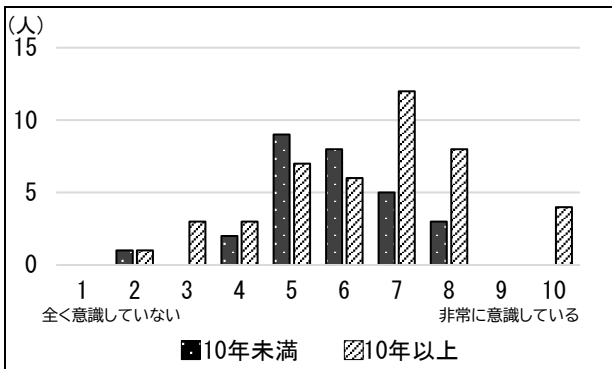


図13 育成すべき資質・能力の3観点への意識 (経験年数別)

全体、経験年数別ともに、同様の傾向を示した。経験年数で比較すると、10年以上の教員の方が意識が高かった。

b 個別の指導計画の目標との関連について

全体と経験年数に応じて整理した結果は、次のとおりである（図14・15）。なお、無回答者5名は除いた。

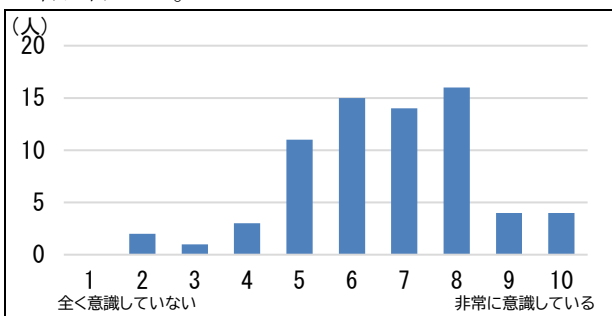


図14 個別の指導計画の目標との関連への意識 (全体)

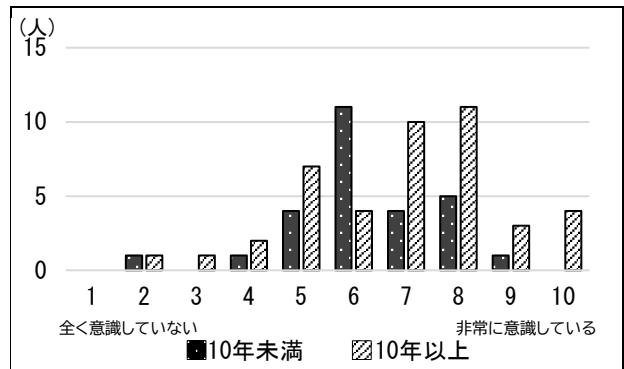


図15 個別の指導計画の目標との関連への意識 (経験年数別)

全体、経験年数別ともに、同様の傾向を示した。経験年数で比較すると、10年以上の教員の方が意識が高かった。

(i) 考察

「育成すべき資質・能力の3観点への意識」と「個別の指導計画の目標との関連への意識」を比較すると、経験年数に関わらず、「個別の指導計画の目標との関連への意識」の方が高いことが分かった。また、経験年数で比較すると、両者への意識は、10年以上の教員の方が高いことが分かった。

3 研究のまとめと今後の課題

本年度の研究では、知的障がい教育における生活単元学習の授業づくりに焦点を当て、協力学校でのアンケート結果や先行研究等から、「三つの学び」の姿や、それらの学びの姿を引き出すための年間指導計画・単元計画・授業計画を考える際のポイント、授業づくりの課題を明らかにすることができた。

次年度は、協力学校において、本年度の取組を基にしながら、授業づくりの課題解決を目指した授業実践を行うとともに、その取組をまとめ、生活単元学習における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の一助となる資料を作成したいと考えている。

主な参考文献

- 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 2017
- 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）』 2017
- 文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）』 2017

- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
「知的障害教育における『育成すべき資質・能力』を踏まえた教育課程編成の在り方ーアクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化ー（平成27・28年度）」 2017
- 小田浩伸 「支援教育における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」令和元年度大阪府教育センター研究フォーラム 支援教育における「主体的・対話的で深い学び」分科会 2019.12.26
- 岐阜県飛騨教育事務所 「【生活単元学習】『主体的・対話的で深い学び』の手引き」2018
- 埼玉県立総合教育センター 「令和元年度特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導実践に関する調査研究」 2020
- 文部科学省 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」 2016
- 全日本特別支援教育研究連盟 『特別支援教育研究No.724』 東洋館出版社 2017
- 岡山県総合教育センター 「知的障害教育における『主体的・対話的で深い学び』に関する研究」 2019
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会 『学習指導要領Q&A特別支援教育[知的障害教育]』 東洋館出版社 2020
- 武富博文・松見和樹 『知的障害教育におけるアクティブ・ラーニング』 東洋館出版社 2017
- 吉田真理子 『こうやればできる！知的障害特別支援学校の「主体的・対話的で深い学び」』 ジアース教育新社 2019
- 静岡県総合教育センター 『「主体的・対話的で深い学び」実現のためのサポートブック』 2018